

イエメン支援隊

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 太原・桑波田・田上・奥原・緒方

1 設定理由

この活動は**卒業生の塚本修三先輩**から引き継いだ。先輩はもともとイエメンのコーヒーが好きで、飢餓で苦しんでいる子供たちのために何か活動をしたいと思って活動を始めた。



私たちは元々支援活動や世界情勢に興味を持っていた。先輩の活動発表を聞いて自分たちも活動に参加したいと思った。

2 イエメンの現状

2015年から内戦が勃発しており、約2070万人の**国内難民**を生んだ。これは人口の3人に2人が**人道支援**を必要としている計算になる。また、全死者の7割が5歳以下の子どもと推定されている。国民の約490万人が栄養失調で、約1560万人が極度の貧困状態に置かれている。

3 研究仮説

- ・イエメンコーヒーの販売をすることで、もっと多くの人に**イエメンの状況**を知ってもらい、興味、関心を高めることができるのではないか。
- ・活動をすることで**支援の輪**を広げられ、少しでもイエメンの方々の力になることができるのではないか。

4 実践

①イエメンコーヒー販売（4月23日）

目標 イエメンの現状を知ってもらう
完売させる

事前準備

1. コーヒーの発注
2. アポ取り
3. ポスター・チラシ作成
4. 値段設定

実践（流れ）

- ①販売開始
- ②呼び込み
- ③イエメンの治安状況説明
- ④商品説明
- ⑤販売終了

結果 全体の八割を売ることができた
イエメンについて説明することができた

②募金活動（6月11日）

目標 水揚げポンプの資金を貯める

事前準備

1. アポ取り
2. ポスター作製
3. 貯金箱作成

実践！



結果 約18000円の募金をしていただいた。

5 実践後の課題

イエメンの現状はあまり知られておらず、興味を持ってくださる方はいたが声をかけてくださる方は少なかった。
また、お客さんにコーヒーの種類の説明をする際に戸惑った。



6 成果と今後の展望

今回の活動でイエメンの現状について知ってもらい、資金援助などの活動の協力を得ることができた。これからの活動としてはSNSを使いイエメンの知名度向上に努め、もっと多くの人に知ってもらいたい。また募金箱の設置で継続的な金銭援助を行う予定だ。さらにオープンスクールでイエメンコーヒーを使ったカフェを実施したい。